

第八章 中部編

第 21 日目 (8 月 9 日(土))

紀勢本線「台風 10 号」によりダイヤ大幅に乱れ、紀州鉄道に乘れず引き返す

試験列車もトラブル発生 今後当分は計画の見直しが毎日続く

紀伊田辺-新宮-多気-伊勢市-松坂-伊勢市

旅には、事故、事件は付き物であったから特段の怒りもなく不安もなかった。

時には怪我人、病人、そして死人騒ぎがあり、列車の臨時停車、長時間列車が走れずに待たされたことがこれまでに何度も経験があった。

時には、「特急 あずさ 殺人事件」の目撃者にもなったことがあった。

旅は英語で「トラベル」と言うが、別名は「トラブル」と言う時もあることを忘れてはいけない。

要は、その後の対処の仕方です。楽しい旅であったか面白くない旅であったかが決まるのである。

これからの目的地は、紀州鉄道に乗る為、御坊駅まで戻る感じで朝 1 番の列車 5:25 発で向かうことにした。

紀州鉄道には以前 1 度だけ乗ったことがあるが、今回は福沢諭吉の勧めで乗ることにしていた。

別に人に勧められたから乗るのではなく、地方の鉄道も踏破するのも目的であった。

紀州鉄道には学門「がくもん」と言う駅があり、福沢諭吉が小生に盛んに「学問のすすめ」をしてきていた。

すすめる理由は学問ではなく、同じ誕生日の 12 月 12 日生まれのよしみであった。

参考までに、福沢諭吉の生誕 100 年の当日に小生が生まれたのである。

紀州鉄道は御坊市の郊外にあり、昨夜に御坊駅で下車した方が近道であったが、わざわざ紀伊田辺駅まで乗り越して乗ったのである。

しかも、紀州鉄道に乗るにも近道ではなく反対に遠回りであった。

何故ならば“学問に近道なし”であった。

そして、人生にも近道はないと思い、徳川家康の言葉を思い出した。

「人の一生は重荷を負て遠き道をゆくが如し、急ぐべからず！」であ

列車は、昨夜とは逆に御坊駅を目指して走ってくれた。

これも少しでも多く乗る為の行動の 1 つでもあった。

雨は小降りになっていたが、昨日の影響が残っているらしく試験列車が走っていた。

試験列車には当然、乗客は乗っておらず、多くの作業着姿の鉄道工事の関係者が乗っていた。

この試験列車の後に続けて走るようになっており、列車はホームに入り定刻に発車するということ

で乗車した。

